

1. Yamakavagga 対(句)の章

m.双、対 m.章

* は、再出単語。

1 manopubbaṅgamā dhammā manoseṭṭhā manomayā,

mano	pubba	-gama	dhamma	seṭṭha	-maya
n.意、心	a.前の	a.行く	m.法	a.最上の	a.製の、作の
	pubbaṅgama		pl.Nom.	m.pl.Nom.	m.pl.Nom.
	先行、先駆、先導	(すべての行為)			
	pl.Nom.				

すべての行為は、心が先導しているのであり、心が勝っているのであり、心が作り出すのである。

manasā ce paduṭṭhena bhāsati vā karoti vā

manas	ce	paduṭṭha	bhāsati	vā	karoti	vā
n.意、心	conj.	a.邪悪の、汚れた	3sg.pres.	conj.	3sg.pres.	*
sg.Inst.	もし	n.sg.Inst.	話す	または	為す	
				あるいは		

もし、汚れた心で話したり、行ったりすれば、

tato naṃ dukkham anveti cakkam va vahato padaṃ.

taのAbl.	so(m.)の	dukkha	anveti	cakka	iva	vahati (運ぶ)	pada
それより	sg.Acc.	n.苦	3sg.pres.	n.輪、車輪	indec.	の現在分詞	n.足、足跡
それ故に	彼に	sg.Nom.	従う	sg.Nom.	如く	sg.Gen.	sg.Nom.
その後						運ぶものの	
						牛の	

それ故に、彼に苦が従う、牛の足に車輪が従う如く。

参考 va

iva 如くの略

eva こそ、のみ、だけ の略

vā または の代わり

2 manopubbaṅgamā dhammā manoseṭṭhā manomayā,

mano	pubba	-gama	dhamma	seṭṭha	-maya
*	*	*	*	*	*

いかなる行為も、心が先導しているのであり、心が勝っているのであり、心が作り出すのである。

manasā ce pasannena bhāsati vā karoti vā

manas	ce	pasanna	bhāsati	vā	karoti	vā
*	*	a.明浄の	*	*	*	*
		n.sg.Inst.				

もし、清らかな心で話したり、行ったりすれば、

tato naṃ sukham anveti chāyā va anapāyini.

tato	naṃ	sukha	anveti	chāyā	va	anapāyini
*	*	n.楽、幸福	*	f.影	*	f.離れざる
		sg.Nom.		sg.Nom.		sg.Nom.

それ故に、彼に幸福が従う、影が離れざる如く。

* は、再出単語。

3 "akkocchi maṃ avadhi maṃ ajini maṃ ahāsi me",

akkosati	ahaṃ	vadhāti maṃ	jināti maṃ	harati	ahaṃ
罵る、そしる	のAcc.	殺す、打つ *	勝つ *	持ち去る	のAbl.
のaor.	私を	のaor.	のaor.	のaor.	私から
3sg.		3sg.	3sg.	3sg.	

「(彼は)私を罵った、私を殴った、私に勝った、私から持ち去った」

ye taṃ upanayhanti veraṃ tesam na sammati.

ya の	ta の	upanayhanti	vera	ta (m.)の	na	sammati
m.pl.	m.sg.Acc.	恨む	n.sg.Nom.	pl.Gen.	adv.	静まる
Nom.	彼を	3pl.pres.	うらみ	彼らの	否定	3sg.pres.

と、彼を恨む人々、彼らの恨みは静まらない。

4 "akkocchi maṃ avadhi maṃ ajini maṃ ahāsi me",

akkosati	maṃ	vadhāti maṃ	jināti maṃ	harati	me
*	*	*	*	*	*

「(彼は)私を罵った、私を殴った、私に勝った、私から持ち去った」

ye taṃ na upanayhanti veraṃ tes'ūpasammati.

ye	taṃ	na	upanayhanti	vera	tesam	upasammati
*	*	*	*	*	ta (m.)の	静まる
					pl.Gen.	3sg.pres.
					彼らの	

と、彼を恨まない人々、彼らの恨みは静まる。

水野文法書P.61 抑制音 ṃ の連声
 母音又は子音の前の ṃ, aṃ, iṃ は時に消失し、
 母音は長音化することがある。
 tesam upasammati
 tes upasammati aṃ 消失)
 tes ūpasammati 母音u の長音化)

* は、再出単語。

5 na hi verena verāni sammant'idha kudācanaṃ

na	hi	vera	vera	sammati	idha	ku-dācanaṃ
adv.	adv.	n.sg.Inst.	n.pl.Nom.	静まる	adv.	adv. 文P.140 § 61
否定	実に	うらみ	うらみ	3pl.pres.	ここに	決して、いかなる時も
		によって			この世	

実に、この世においては、恨みによって、どんな恨みも決して静まらない

averena ca sammanti, esa dhammo sanantano.

avera	ca	sammati	=etad	dhamma	sanantana
a.怨みなき	conj.	*	指示代	m.法、真理	a.永遠の
sg.Inst.	と		これ	sg.Nom.	普遍的な
によって	そして		m.sg.Nom.		m.sg.Nom.
	(しかしながら)				

恨みなきによって静まる。これは、永遠の真理である。

6 pare ca na vijānanti: "mayam ettha yamāse",

para	ca	na	vijānāti	ahaṃ	ettha	yamati
辞P.346	*	*	了知する	のpl.Nom.	adv.	自制す、抑制す
代名詞的形容詞			3pl.pres.	私達は	ここで	の反照態、1pl.
m.pl.Nom.					今	「引き続き死の面前にある」
他の人々						(死んでしまう)
他の人々は「私達は、ここで引き続き死の面前にある(死んでしまう)」ということを了知していない。						
「私達は自制するものである」						

ye ca tattha vijānanti tato sammanti medhagā.

ya	の	ca	tattha	vijānāti	taのAbl.	sammati	medhaga	ye	を受ける	tesaṃ	(m.pl.Gen.) が
m.pl.	*	adv.	*	それより	3pl.pres.	m.確執		省略されている。			
Nom.		そこに		それ故に		pl.Nom.					
他の人々に							争い				
対して	我々										
そこで(それを)了知している人々ならば、(彼らの)争いは静まる。											